

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	4
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介	5

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2021」 今年はやります！ 詳細をお待ちください！

(タイトルに書いてありますが、しばし茶番をお楽しみください)

みなさま、大変お待たせしました。

「桜のある水辺風景 2021」は・・・

今年・・・

開催・・・

・・・します！

わー、ぱちぱちぱちぱち！・・・はいっ。というわけで。いやー、このお知らせができること、ほんっつとうにうれしく思います。思えば昨年は新型コロナウイルス感染拡大のためやむなく中止となり、楽しみにしていたみなさまには、本当に申し訳ありませんでした。

今年も、まさかの感染再拡大で緊急事態宣言が出され、先月号のニュースレターでも「企画をどうするのか結論はだしていない」などとなっており、ファンの方は「どちなのか？ やるの？ やらないの？」とやきもきされた方も非常に多いのではないのでしょうか？
(多いと信じたい)

担当の私も、どうなることかと思っておりましたが、この度、ようやく開催決定のお知らせができることとなり、ここにお知らせする次第です。これもひとえに、長く企画を愛していただいているみなさまのおかげです。どうもありがとうございます！

た・だ・し。

実は開催が決定しただけで、細かいことが決まっておりません。

というのも、(お気づきの方ももしかするといらっしゃるかもしれませんが)、昨年 Facebook アカウントが原因不明のアクセス不可となり、一切情報の更新ができなくなってしまいました。色々調べているのですが回復不能の結論に至っております。

ということで、応募投稿方法から見直しが必要となり、あわせて、本企画も 10 年経過したということもありますので、もう一度企画内容を検討してみようじゃないか！ということになりました。

しかし、この年度末の折、なかなか結論をだすことができず、ニュースレターの締切を迎えてしまったということになっております(伏し目)。謹んでお詫び申し上げます。本当に、申し訳ありません。

ただいま、企画内容を大急ぎで詰めておりますので、皆様には今しばらく、今しばらく、お待ちいただきたいと思っております。来月号にはお知らせいたします。

とはいえ、検討の結果、今までとあまり変わらないかもしれませんが。変わるかもしれないし、変わらないかもしれません。寛大な心で、ひと月おまちください。

しかし、当たり前ですが桜が咲くのは待ってられません。ひとまず開催はお約束しますので、みなさん心置きなく、しっかりとコロナ対策しつつ、水辺の桜の写真をバシバシと撮っておいてください。そして、応募要項が発表された暁には、どしどしご応募いただくことを心よりお待ち申し上げます。

応募要項はニュースレターに先行して公開することもあり得ますので、みなさま HP などもチェックをお願いします。

(JRRN 事務局・阿部 充)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト – 「第9回現地研修会 in 名古屋・矢田川」開催報告書完成

2020年11月13日(金)に愛知県名古屋市・矢田川にて「事前モニタリングで学ぶ土砂移動」をテーマに開催しました『第9回「小さな自然再生」現地研修会』の簡易報告書が完成しました。(全44ページ)

本研修会では、河川環境改善を目的にバープ工の設置が予定されている現場において、河道内地形の事前モニタリングのポイント、川の変化の履歴や洪水頻度、土砂移動等について座学と現地演習(河道内地形測量、河床材料調査、流速測定、生物調査等)で学びました。

この開催報告書は、研修会の参加者とともに学んだ内容の一部を、当日の写真と配布資料を中心に皆様にご紹介するものです。皆様にご活用頂ければ幸いです。

※開催報告書のダウンロードはこちらから
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/291>

本研修に協力頂きました、愛知県建設局河川課、矢田・庄内川をきれいにする会及び「小さな自然再生」研究会の皆様には厚く御礼申し上げます。また、本研修会は、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けて開催されました。どうもありがとうございました。

**第9回「小さな自然再生」現地研修会
 ～事前モニタリングで学ぶ土砂移動～
 【プログラム】**

(10:00-12:00) **河道内地形の事前モニタリングを学ぶ座学研修**
 -開会挨拶(岡島充典:愛知県建設局河川課長)
 -矢田川バーププロジェクトについて(川瀬功記:愛知県建設局河川課)
 -矢田川を対象した『川の見方』について(原田守啓:岐阜大学)
 <矢田川の本来の姿と現在の姿/洪水頻度や土砂移動の分析方法/iRICによる河道内地形の変化予測 等>

(12:00~13:30) **各自昼食、矢田川へ移動**

(13:30~15:30) **事前モニタリングの現地調査**
 ■調査指導:原田守啓(同上)、岩瀬晴夫(株式会社北海道技術コンサルタント)
 <矢田川バープ工設置前の事前モニタリング調査(地形、水深、流速、河床材料等)に参加>

(15:30) **閉会**

(JRRN 事務局・和田 彰)

主催:愛知県建設局河川課/矢田・庄内川をきれいにする会
 「小さな自然再生」研究会/日本河川・流域再生ネットワーク

「小さな自然再生」現地研修会(第9回)開催報告

2020年11月13日(金)愛知県名古屋市・矢田川



JRRN
 Japan River Restoration Network

日本河川・流域再生ネットワーク

2021年3月

 公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。




した『川の見方』について
 大学 流域科学センター)
 等
 本巻末「参考資料 1-2」を参照

タリリングで学ぶ土砂移動)

田川において、低水路が設定された準調な河川環境へさせ、河川環境を改善することを目的としたプロジェクトであることを目標としています。このプロジェクトでは、メンバーで決めていくことであり、「バープ工の効果把握するために、法を決めて毎年行い、効果の推移を把握すること」も重要。

「バーププロジェクト」でバープ工の設置が予定されている「(バブルカウント法)、流速測定、四つ手網による生物




【写真:河川環境付近を撮影】

【バブルカウント班】



【計測方法を説明】



計測は、グラハムメーター・シートで確認。



→ 網罟・中層・粗層・粗石を計測。

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

「令和2年度 第13回淡海の川づくりフォーラム」発表&参加報告

2021年2月7日(日)に「第13回淡海の川づくりフォーラム」がオンライン形式で開催され、JRRNより「できることから始めよう 水辺の小さな自然再生」と題した発表を5年振りにさせていただきました。

淡海の川づくりフォーラムは、滋賀県土木交通部流域政策局広域河川政策室等が事務局となり、滋賀県内を中心に川や水辺に関わる活動に取り組む仲間が集う公開選考方式のワークショップです。

『川や琵琶湖、水辺と共生する暮らし』『川や琵琶湖、水辺と私たちのいい関係』を築いていくための参考となる“きりり”と光る活動を公開討論によって探し、その年にいちばん輝く活動をみんなで表彰する行事です。

※「淡海の川づくりフォーラム」ホームページはこちら
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/kasenkoan/19480.html>

今年の全16発表事例の中で、小さな自然再生に関連した活動が多数含まれ、滋賀県内における小さな自然再生の関心の高さと拡がりを知ることができました。

JRRNがこれまで発刊した小さな自然再生事例集の制作や現地研修会を通じて、滋賀県内の川づくりに携わる多くの関係者の協力を頂いてきました。JRRNでは、今後も淡海の川づくりの経験から学んだ知見を全国に伝え、また他地域の取り組みを滋賀にお届けする橋渡しの役割を担えればと思います。

Collaborative Nature Restoration
 できることから始めよう
水辺の小さな自然再生
 日本河川・流域再生ネットワーク / 公益財団法人リバーフロント研究所

“小さな自然再生”とは？
 ～みんなで発案・協働し、手づくりの力で、生物の生態・生育環境を回復します～

【小さな自然再生の定義】
 次の3条件を満たす取り組みを「小さな自然再生」と定義しました。
 ①自己調達できる資金規模であること
 ②多様な主体による参画と協働が可能であること
 ③修復と撤去が容易であること

【小さな自然再生の波及効果】
 地元への愛着の醸成（郷土愛）
 自然との対話を通じた地域の課題の学び（環境教育）
 地域住民の交流が活性化（地域再生）

水辺でできる“小さな自然再生”の種類や事例は？ ～類型と工法と全国の様々な挑戦を紹介します～

類型	目的	工法の例
生態系の健全化	河川の自然環境の回復	各種の植栽、バードボックス、草刈り、伐倒・散材の活用、土留め、石敷き、水たまりの掘削、水質浄化装置の設置
水質の改善	水質汚濁の削減	バードボックス、バードネット、バードハウス、バードフィーダー、バードバス、バードウォッシュ、バードウォッシュボックス、バードウォッシュスタンド
水辺の緑化	水辺の緑化による景観の向上	草花の植栽、雑草の除去、土留め、石敷き、水たまりの掘削
水辺の清掃	水辺の清掃による水質の向上	水たまりの掘削、水質浄化装置の設置
水辺の防災	水辺の防災による安全の確保	土留め、石敷き、水たまりの掘削

“小さな自然再生”を更に全国に拡げるには？ ～仲間を増やし、経験を伝え、技を高め、強い手を育てます～

今後の展開は？ ～小さな自然再生を全国の川づくりに実践していきます～

- 全国の若い世代のネットワーク化（連携・協働体制構築）
- 地域課題に柔軟に対応できる技術の体系化（農業技術や防災技術の活用）
- 支援組織の充実（サポート窓口、専門家派遣、研修プログラム等）
- 普及啓発促進（拡がりの可視化やツール充実化等のアタリマシ）

JRRN

JRRN の発表内容

(JRRN 事務局・和田 彰)



第13回淡海の川づくりフォーラムの様子（淡海の川づくりフォーラムのホームページより引用）

水辺からのメッセージ No.142

岡村幸二 (JRRN 会員)

水元公園： 灌漑用水としての小合溜を活かし東京 23 区随一の親水公園に



撮影：2021年2月（東京都葛飾区・水元公園）

◆灌漑用水としての小合溜(こあいだめ)

江戸の初期には古利根川の河川敷でしたが、旧小合村が新田開発の耕作地としました。1729年に遊水地兼灌漑用水路として小合溜が開削されました。水の元の意味である「水元」が地名の由来です。

◆垂直な幹が心地よい緊張を生む

1968年、明治百年記念公園に指定されて、水辺空間を活かした公園としてのコンセプトが明確になり、記念広場としての「メタセコイヤの森」が生まれました。葉の茂る季節は大抵薄暗いですが、冬場に限って葉が落ちるため、光がいっぱい降り注ぐ空間に生まれ変わります。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーはJRRNホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

会議・イベント案内 (2021年3月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ オンラインシンポジウム「水循環基本法の課題と展望－第2期フォローアップ委員会の活動報告－」

○日時：2021年3月13日(土) 14:00～16:30
 ○主催：水制度改革議員連盟水循環基本法フォローアップ委員会
 ○場所：オンライン (Zoom ウェビナー)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3182.html>

■ 令和2年度 河川教育研究交流会

○日時：2021年3月16日(火)～
 ○主催：公益財団法人河川財団
 ○場所：オンデマンド配信
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3180.html>

■ 令和2年度 川づくり団体全国事例発表会

○日時：2021年4月1日(木)～
 ○主催：公益財団法人河川財団
 ○場所：オンデマンド配信
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3186.html>

■ 第13回 “いい川” “いい川づくり”ワークショップ

○日時：2021年10月2日(土)～3日(日)
 ○主催：いい川・いい川づくり実行委員会
 ○場所：長良川国際会議場(岐阜県岐阜市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3166.html>

■ 皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

冊子等の紹介 *Publications*

■ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 第2集



市民が河川や水路の管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集の続編(第2集)の印刷製本版を普及中です。

本事例集は、水辺の小さな自然再生に取り組む全国の担い手の皆さまに、活動の経緯や目的、実施体制、工法の説明や工夫した点、使用材料や工具、施工後の維持管理や利活用の工夫、活動の効果やキーパーソンなどを執筆頂いたものです。

- 編集：「小さな自然再生」研究会
- 企画・構成：吉富友恭 東京学芸大学環境教育センター
- デザイン：本間由佳 明星大学 デザイン学部 デザイン学科
- 発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- 発行年月：2020年3月

■ 上記冊子の入手方法

本事例集の印刷製本版の送付をご希望の方は、送料(250円)のみご負担頂いた上で、2冊を上限に無料でご提供致します。詳細は右記URLをご覧ください。 → <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1149.html>

※PDF版はこちらからダウンロードできます： <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/247>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

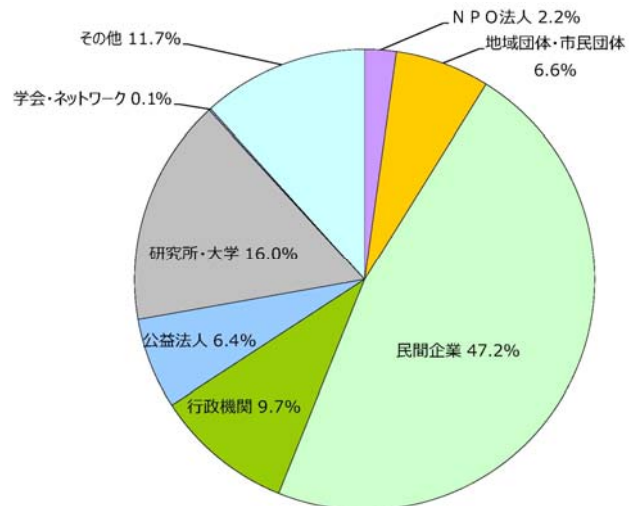
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2021年2月28日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：814名、団体会員数：61団体)
※2月の新規入会数：個人会員0、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

